

## 「新しい生活様式」といわれても・・・

2020.6.2

古田 裕子

諸外国との比較において、コロナ禍における感染拡大を抑えることができた日本。日本人は、今までも、手を携えて多くの困難に遭遇してきました。阪神淡路大震災、東日本大震災など自然災害の多い日本が、苦難の中からも立ち上がり、復興の努力を継続できているのは、日本人の和を大切にする人とのつながり、思いやりの心、信頼感などが大きな源になっています。

しかし、今回のコロナはこの密な関係を引き裂こうとしています。密な関係を避け、人との距離を保つこと。高齢者の命を守るために、家族も会うことがままならない日常。自粛期間中だけならまだしも、今後、新しい生活様式として距離をとることが求められ続けるのです。人々が行動変容を達成するには、まず対象者との信頼関係を築き、時間をかけて繰り返し、その行動を反復していくことが必要です。表面的な指針だけを一定期間守ることはできても、新たな生活を創造することはできません。我々は時間をかけて納得できるまで、なぜそれが必要か？を深く考え、話し合うことが必要です。

命を守る政策は急性期には最重要課題でした。しかし、私たちの人生は命を守るためにすべてを犠牲にして暮らし続けることはできません。文化的で、明るい生活を送るためには、地域社会や人とのつながりを維持することが重要なポイントとなります。

接触や会話を避けようとする「新しい生活様式」に、ただ従うのではなく、この状況下でも、人々が心温まる笑顔や会話をどうすれば提供できるのか。これを考え、実行していくことが、現場で高齢者の方々に接する我々の使命だと思えます。

ステイホームによる高齢者の孤立化を避けるために私たちは活動します。